

改善プロジェクト研究協議会を開いた。推進校と協力校の教諭18人が参加。暮別清陵高は、生徒が端末で自



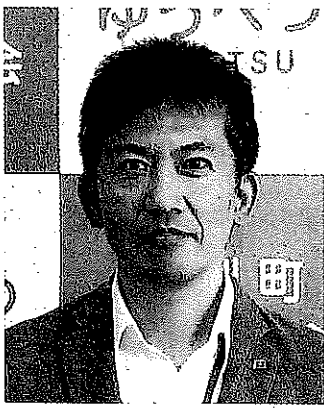
教諭18人が参加し、今後の授業づくりについて研鑽

初任段階1〜5年次の教諭18人が参加。初任段階教員研修の集合形式での開催が困難となり、初任者同士が

# 連携強め子ども主体の教育を

湧別町教育委員会指導室長

## 佐藤 大氏



横顔 2020

湧別町教委が4月に新設した指導室長に就任した。児童生徒の学方向上や湧別町の小中一貫教育の推進に力を入れていく。行政経験は2度目だが、校長の学校経営指導も担うため、「より責任が重くなった」と気を引き締める。

前任地は湧別小学校。長年、中学校教育に携わってきた中、初めて小学校勤務を経験した。

子どもの発達段階の差を踏まえた指導がより重要視され、言葉で物事を伝えることの難しさに直面。全校朝会で伝えたいことを視覚的に訴える工夫を取り入れるなど、「試行錯誤の3年間だった」と振り返る。

湧別町では、保護者や地域の協力が厚く、地域の産業などについて学

習する機会が充実していることを強く感じた。子どもたちには「湧別町というふるさとを誇りに思ってもらいたい」と願う。

平成30年度に開校した茜露学園に続き、湧別小と湧別中学校を擁する湧別地区においても、義務教育学校の設置に向けた取組がスタートした。

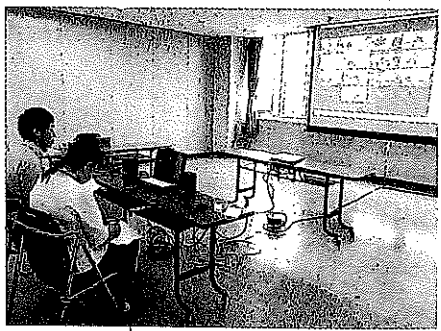
本年度から湧別小を中心とした「湧別町型学校方向上事業」が開始。学校間の縦と横の連携を強め、教育の質の向上につなげる方針だ。

目指すのは、「子どもたちが主体となって活躍できる教育」。「学校・地域・保護者と連携しながら、新たな湧別町の教育を考えていきたい」と語る。

さとう・ひろし

平成3年道教育大剣路分校卒。15年道教育大学院修了。22年湧別町立湧別中教頭、25年北見市立北光中教頭、26年北見市教委指導室主幹、29年湧別町立湧別小校長、ことし4月現職。

昭和41年7月20日生まれ、54歳。函館市出身。



前半は、授業づくりに関する悩みなどを話し合った。参加者からは「子どもたちが主体となる授業にする工夫は」「コロナ禍でのペア・グループ交流はどうしているか」といった初任者同士で授業づくりなどについて意見交換

のほ 自分一人で抱えようではなく、周りの先生に助けを求めたい。同じ教科や同じ年次といった横のつながりを大切にして頑張りたい」と助言した。

田中教諭は「学び合うということが大切な状況にある。日々の実践を人に伝えたり、吸収したりする経験が大事だと感じた」と話した。

### リモート学習環境整備など加速化へ

#### 増毛町補正予算

【留萌発】6日に開かれた増毛町議会第4回臨時会場で、新型コロナウイルス感染症対策などに関する補正予算案が成立した。教育費には3488万円を計上。

WiFi環境のない児童生徒のため、リモート学習環境整備事業に80万円を、また、増毛小学校のアンテナ工事のほか、ルーターの設置などGIGAスクール加速化事業に419万円を計上した。

リモート学習環境整備事業に80万円を計上。町立文化センターのインターネット回線を増設するなど、新型コロナウイルス感染症による休校時のオンライン学習において、会議室などを開放し、WiFi環境のない児童生徒に対し学習環境を提供する。

また、GIGAスクール加速化事業に419万円を計上。増毛小のアンテナ工事のほか、ルーターや液晶テレビの設置などを行う。

このほか、増毛小や認定こども園の感染予防として空気清浄機やサーモグラフィを購入する学習環境整備事業に147万円、

増毛小の屋外で児童が手洗いでできるよう小学校屋外手洗場整備事業に74万円を計上した。

29日セミナー開催参加は先着10人  
教育大附属剣路中

【剣路発】道教育大学附属剣路中学校（早勢裕明校長）は、29日午前9時から技術・家庭科の授業力向上セミナーを開く。

技術科のリモート授業を公開するほか、質疑応答などを行う。3密回避の観点から、参加は先着10人で締め切る。

具体的内容をみると、